

茨城園研式イチゴ高設栽培装置の開発と栽培管理法



農業総合センタ - 園芸研究所

国内には既に多くの栽培装置が実用化されていますが、「比較的安価」で「単純な管理でも安定生産」可能な、そして「環境にやさしい」ことを特徴とする栽培装置を開発しました。

栽培装置の施工

直管パイプで骨格を組み立てます。装置の高さは標準的には90～100cmですが、各人の最も楽な姿勢で管理できる高さに調整します。

装置骨格直上に不織布(定植槽)を、直下にビニール(貯水槽)をU字型に装着します。

不織布にはもみがらを充填、貯水槽には水を給水します。容量はそれぞれ40～50L/mです。

貯水槽には水中ポンプを沈め、もみがら培地上に配置したかん水チューブに連結します。

装置資材費は、10a規模相当で約150万円です。



表1 茨城園研式装置の資材費(千円/10a)

名称	金額
骨組み	752
栽培槽	239
水槽	219
灌水装置	275
保温資材	20
その他	15
合計	1,519

研究用に建設した装置から試算

栽培管理法

育苗は、定植後活着の良いポット育苗とします。小型ポットを利用すると定植時の作業性が良くなります。栽培槽の中のもみがらを十分に濡らします。

9月上旬に肥効調節型肥料を窒素成分で10a当たり24kg条施し、苗を定植します。

定植後のかん水はタイマ制御で水中ポンプを稼働させ、1日4～8回1時間間隔で少量多回数とします。

10月下旬の保温開始の時期には、装置周囲を透明マルチで覆い培地保温します。

果実収量は、10a当たり4t程度期待できます。



もみがらの濡らし方



施肥の方法

表2 果実収量(kg/10a:8000株相当)

年度	栽培装置	12～5月	
		可販果重	平均1果重
2003年	RW(慣行)	3,354	18.5
	高設栽培	3,846	17.8
2004年	高設栽培(所内)	4,426	17.7
	高設栽培(現地)	4,416	-

品種：とちおとめ